

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



### 合田 直弘

JRAの開催でも6月第1週から2歳戦がスタート。2週目の9日に阪神でキズナ産駒のルーキエデラヴィタが勝ち上がり、今年の新種牡馬産駒のJRAにおける勝ち馬第1号となつて話題となった。欧米でも既に2歳戦は始まつており、それぞれの地域で好ダッシュを決めて注目を集めているフレッシュマンサイヤーがいる。

欧洲で早くも7頭の勝ち馬を出し(6月9日現在、以下同様)、ファーストシングルサイヤーランキングの首位を走っているのがケーブルベイ(父インヴィンシブルスピリット)だ。それも、21頭がデビューシテの7勝で、33%という高い勝ち上がり率を誇っているところも、関心を集めているポイントである。

ランボーンに拠点を置くC・ヒルズ厩舎からデビューし、現役時代は20戦を消化。「ユーマーケット」のG2チャレンジS(芝7F)、ヘッドックのG3ジョンオヴゴーンT(芝7F37y)を含む3勝を挙げた他、英国有ける2歳王者決定戦的位置づけにあるG1デューハーストS(芝7F)の2着を含めて、実に11の重賞で入着を果たしたのがケーブルベイだ。すなわち、仕上がりが早く、馬場状態にかかわらず堅実に走った競走馬で、最も得意とした距離は7Fであった。

16年にハイクレアスタッフで種牡馬入りし、種付け料は初年度から今年まで一

貫して65000ポンド(約89万円)が設定されている。

昨年に欧州各地で開催された1歳市場では、上場された79頭の初年度産駒のうち、73%にあたる58頭が平均価格20,024ポンドと、種付け料の3倍以上の金額で購買されている。中には、ハムダン殿下のシャドウエルに15万ギニー(約2167万円)で購買された牡馬がいたり、今年4月に開催された「ゴフフUK」2歳セールで20万ポンド(約2752万円)で購買された牡馬もいて、マーケットにおける評価は上々だった。

J・クインが管理し、デビューカラ2戦2勝の成績を残しているリバティビーチ(牝2、父ケーブルベイ)あたりは、次は重賞戦線に顔を出すものと思われるだけに、どんなパフォーマンスを見せるか注目したい。

一方、北米のファーストシングルサイヤーランキングで首位に立っているのは、フロリダ州のジャーニーマン・スタリオンズで供用されているコーザン(父ディストートードビューモア)である。

「ファンディングティップトン・フロリダ」2歳セールに上場され、公開調教で1F=9秒8をマークした同馬をアルシャカブが100万ドルで購買してT・フレッチャー厩舎

に入厩。3歳1月にガルフストリームで行われたメイドン(d7F)を3.3/4馬身差で制して、デビュー勝ちを果たすと、続いて出走した同じガルフストリームの条件戦(d8F)では、後続になんと12.3/4馬身をつける圧勝。一部でダービー候補の呼び声も掛かつたが、その後故障を発症し、2戦したのみで引退。北米で3歳時・4歳時・5歳時と3年連続最優秀牡馬の座に輝いたロイヤルデルタの半弟という良血も買われ、16年に種付け料65000ドル(約71万円)が設定されて種牡馬入りを果たした。

昨年の1歳市場では37頭が上場された10頭の産駒の平均価格は62,450ドルと、初年度の種付け料の10倍近くに上昇しており、動かして良さが出る仔を出すタイプの種牡馬のようだ。ここまで13頭がデビューカラうち5頭が勝ち上がっているから、勝ち上がり率は38%をマーク。6月9日のガルフストリーム開催で組まれていた2つの距離5Fの2歳新馬戦を、いずれもコーザン産駒が制するなど、父譲りの豊かなスピードを發揮している。

こちらも、今後が注目の若手種牡馬と言えそうだ。